

第2回勝山市立中学校再編準備委員会 議事録

(1) 日 時：令和6年7月11日（木）19:40 より（勝山市体育館 ジョアリーナ 研修室）

(2) 参加者：準備委員18名（4名欠席）、事務局11名、報道2名、傍聴3名

(3) 内 容

1. 部会長あいさつ

2. 資料説明及び意見交換

①総務部会について

②学校運営部会について

③PTA部会について

④施設整備部会について

《委員長あいさつ》（省略）

《資料説明及び意見交換》

委員長 ・すぐに事務局から説明をお願いします。

事務局 ・本日の会議内容について説明させていただく。4月に開催した第1回目の再編準備委員会の後、各専門部会が行われた。その部会の報告の内容がかなり多くなるので、事務局の方から説明し、その中でご質問、ご意見をいただきご協議をいただきたい部分はその都度でお願いしたいと思う。

委員長 ・レジュメに従って議事を進めたいと思う。各部会より進捗状況の報告をお願いしたい。

（総務部会について）

事務局 ・総務部会の報告をさせていただく。他の委員の皆様にはお待ち願ったが総務部会は今ほど会議が終わった。資料1をご覧ください。まず今年度の検討内容である校章の選定方法について議論いただいた。専門家に依頼し子ども達の意見を取り入れながら複数の案を作り、それを子ども達が投票する形で決定していく流れを提案した。委員の皆様からは子ども達が親しみをもてるものやプライドをもてるもの、あるいは勝山の顔としてふさわしいものという意見があった。別の視点からは中学校の校章は中の周りに何か書いてあるという既成概念にとらわれずに斬新な形で依頼するといった意見もいただいた。基本的には事務局で提案した案でいいのではないかという決定をいただいた。この後再編準備委員会の承認をいただくことができれば作業を進めていきたい。

資料2をご覧ください。校歌については次年度以降の作業となるので方向性についてご意見をいただいた。校歌も専門性の高い作業なので専門家に依頼するのがいいのではないか。作成に当たっては校名募集時に市民の方からいろいろなキーワードをいただいたので提供するといった意見があった。作成手順としては総務部会、再編準備委員会で承認をいただいた後、市教育委員会で決定するという流れではどうか。専門家を選定することについては、直接依頼できる方がいれば直接交渉していくが難しい場合は専門業者に依頼して作詞家や作曲家の選定を委託しては

どうかという提案をした。委員の皆様からは難しい曲ではなく気軽に口ずさめるような曲にしてもらえるといいという意見をいただいた。校歌については今年度の予算要求の中で次年度に向けて予算を確保していきたい。総務部会については以上になる。

委員長 ・今の報告についてご意見等あればどうぞ。なければこれでいいということで次に移りたい。

(学校運営部会について)

事務局 ・総務部会の内容については承認いただいたということで進めていきたい。次に学校運営部会の報告をさせていただく。資料3をご覧ください。昨年度制服、体操服の選定を行なった。制服、体操服は今年度から販売になる。そのほかのことはどうなるのか不安になる児童や保護者の皆さんがおられると思うので、基本的な学校生活について説明できるようにしておきたい。その細かな内容を学校運営部会で決めている。その決めてきたことを12月5日に入学説明会交流会として現在の6年生の皆さんと保護者の皆さんに集まっていただき、令和9年度開校時のイメージを持っていただく。1、2年生の時はそれぞれの中学校で過ごし3年生になったときにこのぐらいの仲間になるんだな、ジオアリーナでみんなで活動するのだなとイメージしていただく。不安を払拭していただくことを目的に実施したい。委員の皆様からは平日開催は保護者が難しいのではないかと、どういう意義とするのかという意見があったが特に重視したのは子ども達に極力全員参加してもらって子ども達自身が不安を払拭することを最優先したい。授業の一環として集まっていただきたい。参加できない児童や保護者に対してはHPでお知らせしたり質問フォームを作ったりして対応していきたい。2月には各中学校でそれぞれの説明会があるのでそこにも同席させていただいて質問があればお答えしていきたい。このような内容でご理解をいただいた。物品販売を部会の時は12月7日(土)とお伝えしたが業者の都合で12月8日(日)にお願いしたい。

委員長 ・資料3について質問等あればどうぞ。

委員1 ・物品が今年度から販売で来年度入学生は新しい制服限定になるのか、兄弟の物を使ってもいいのか。

事務局 ・来年度入学生の皆さん、再来年度の入学生の皆さんは基本的にはどちらでもいい形を取りたい。移行期間を経て揃っていく。

委員2 ・9年度には全員新しい制服ということか。

事務局 ・準備委員会の役割が開校までで9年度は学校が判断することになる。各家庭の事情がいろいろあると思うので個別相談に応じる形になるのではないかと。

委員3 ・9年についてはまだわからないということか。個人的には最後の一年で制服を新しく買わなくてはいけなくなるとつらいので3年後返却ありきで市から補助とか返却したものを2周ぐらいは使えるので割安販売するとかを検討してほしい。

事務局 ・ご意見として伺っておく。

委員4 ・このような交流会をたびたび開く予定なのか。

事務局 ・この交流会は1時間の中なのでアイスブレイクのような気持ちを楽にしてもらうような会ができればと思う。内容については今後担任交流会や小中での説明会の中で子ども達や先生方の意見を聞きながら決めていきたい。他の交流会については今年度予算

を取って9年度に全小学校から集まるということが大きなハードルにならないように各中学校ブロックで子ども達が集まった時にも交流会をするし、7月16日に勝山高校の学びの祭典があり3中学校の3年生の生徒が集まるということが継続的に行われることと思う。顔を合わせる機会を増やしていきたい。

委員5 ・12月5日以外の日も必要ではないかということでHPとか質問フォームで周知するとあったがそれは大事。来れない理由がたとえばいじめとか人に話をしたくない場合、HPで対応できるのか。これからの部会で検討すると思うがいろいろな子ども達、親御さんに情報が伝わる機会を持ってほしい。

事務局 ・ご指摘のように決めきめではなく個別の案件について協議をして極力対応策を取りたい。

委員長 ・一人一人、すべての子に配慮をいただきたい。他にはどうか。ねらいに「3年間の見通しを説明する」とあるとそれがメインに見えてしまう。まずは「交流会をすること」で切った方がいいのではないかな。特になければ資料4に移る。

事務局 ・今から説明する内容はこの入学説明会の中で説明していくものになる。資料4をご覧ください。学校指定物品についてだが基本的な考え方として生徒の自主性を育てたい、子ども達が自分で判断して自分たちで生活していけるような学校にしていきたい。学校が縛り付けてこれにきなさいとはできるだけしないことを考えたい。通学カバンは個別の品を指定せず大型のリュック形式で特に色や形を指定せず安全に通学できるものにした。制服に付けるリボン・ネクタイについて応募の時にリボンは対象外としたが最終的に関係業者とも相談をして応募時の物に決定した。カッターシャツ、ポロシャツは白で無地のものであれば自由に購入して良いとしている。内履き、外履きは学校によって学年の色を分けたりしているが学年の色分けはしないが、生徒の安全管理上指定した方がいいのではないかと意見が多く指定させていただく。7、8年度については現在の物でも構わない。制服の胸元にエンブレムを付ける。エンブレムを付けて制服の販売となるため早目に決定する必要がある。現在中学生からエンブレムのデザインの募集は終わった。その中から数点をCG加工して小学校4年生から中学校3年生までに投票していただいて最終決定をする。7月中には投票を終えて学校運営部会で決定していただく。時間的にタイトでそのためだけに集まることになるので紙面で審査をしていただく。決まったら再編準備委員会にもお知らせし市の教育委員会で最終決定をしたい。体操服のゼッケンは小型のもので胸または袖に付ける。学校によっては学年の色分けをしているが学年色はない。日焼け防止とかさまざまな理由で長袖の夏用体操服を着るリクエストも聞いている。希望する生徒に対して長袖の夏長体操服の配慮も考えたい。

委員長 ・資料4についてどうか。

委員6 ・通学靴は何でもいいのか。

事務局 ・すでに指定していない学校もあるし、今年度生徒会でいろいろと考えてスニーカーでもいいだろうとされた学校もある。特に指定はしない。

委員7 ・高級なスニーカーでもいいということか。普段履いているのでそれで来てしまう。

事務局 ・今のスタンスとしてはいいということ。今の中学校の生徒会の規程もあるのでどう子ども達が判断していくのか、こちらから先に決めるのではなく子ども達にゆだねてい

きたい。

委員 8 ・小型のゼッケンだが着脱可能なものを付けるのか、刺繍で付けるのか。着脱可能であれば外して帰ればより安全。悪いことを考える人は小さくしようが標的を決めてしまうと同じ、何とかして情報を得ようとする。

事務局 ・部会でも名前が必要なのかはかなりの議論になった。たくさん子ども達が集まるのでないのはいかかという意見もあり小さなものに決めた。着脱可能ではなく名前が印刷されたものをアイロンプリントでくっつけることを想定している。付ける位置は袖口とか胸元だとロゴとの関係があるので今後検討したい。名前を付けるかどうかは子ども達の交流の観点からできるだけ小さいもので付けることを考えている。

委員長 ・最近では個人の名前がわからないようにすることが多い。他にないようなら次の資料に移る。

事務局 ・資料 5 をご覧いただきたい。日課表になる。学校ができてから修正されていくものかとも思うがバスとかいろいろなことが付随して関係してくるので特に始業時間や終業時間を議論した。基本的に勝山高校と授業時間を合わせる。登校完了時刻を今よりも 20 分間程度遅い 8 時 20 分として勝山高校と合わせることになる。放課後は 16 時頃と 17 時 30 頃を目途に下校時刻とする。この辺りをベースにバスの便を考えていく。

資料 6 をご覧いただきたい。部活動の考え方について議論をした。基本的な考えとしては現在設置されている部活動は継続していく必要がある。80 分間程度を活動時間として生徒が主体になって活動する時間を確保したい。活動の内容については現部活動の継続に加えて新たな生徒主体の活動が設置できないかどうか、勝山高校が実施している部活動との連携の可能性がないか。部活動の地域移行が全国的に進んでいる。勝山も他市町と足並みをそろえて令和 8 年度の夏季大会以降、現在の中学校 1 年生の最後の大会が終わったあとは土日の活動は行わない。新聞報道では 10 市町が出ているが令和 8 年度以降は全市町がそうなると思うので勝山市も関係機関と協議をしていきたい。

委員長 ・資料 5、資料 6 についてどうか。

委員 9 ・放課後活動で「参加は希望制とし、令和 8 年度 1、2 年生の希望調査により最終決定」とある。例えば令和 8 年度 1、2 年生が令和 9 年に 2、3 年生となり新中学校へ行った時に新しい部活に挑戦したいという子がいる可能性がある。地域移行の目的にも平日は野球部だが週末はサッカー部ということもある。生徒にいろいろな可能性を提供する意味でも令和 9 年への希望調査が 1、2 年生の時の部活に絶対は入らないといけないのか選べるようにするのか。可能性は広がると思うし地域移行での推進にもつながってくるので協議していったほしい。

事務局 ・ご指摘のように学校が統合されることが子ども達にとって機会が増えていいことになると思うので校長先生方とも相談して考えたい。

委員 10 ・資料 6 の「勝山高校の部活動と可能な範囲で連携する」を再度説明していただきたい。

事務局 ・ワーキングチーム会議の中でも話があって例えば勝高には日本文化部があるが可能性として中学生が入ることができるのかということ。他にも可能であれば検討してみたいという内容である。

- 委員長 ・ 令和 9 年に中 1 になる子には聞かないのか。
- 事務局 ・ 小学校 6 年生に聞くのかどうかは吟味していないので様子を見て必要があれば聞くことになると思うがまずは今いる生徒のことを考えたい。
- 委員 11 ・ 勝高の連携だったら表に勝高の部も増やした方がいい。ボランティア部とかもある。
- 事務局 ・ 学校運営部会の皆様にはいろいろなものが乗っている資料だったので誤解を招くことになりかねないということで修正させていただいた。
- 委員長 ・ どんな部があるのか知らない方にとってはあるといい。他にはどうか。では次に移る。
- 事務局 ・ 具体的にはまだ決まっていないが中学校が勝山高校の敷地内にできることは、中学校の教育と高校の教育が近くなる。令和 7 年度の中学入学生がどのような形で勝山高校に入れるのか、勝山高校の先生はどのように中学生と関わっていただけるのか、連携型中高一貫教育ということで設置主体は高校が県で中学校は市なので全てを一緒にすることはできない。極力、一緒にいる効果を高めるような教育をしたい。市単独ではできないので県教委と相談を始めた。委員の皆様からは勝山の中学校に行った多くの子が勝山高校に行ける仕組みをつくるといいのではないかと、簡単な入試で勝山高校に入る仕組みを取り入れるのであれば何かこんなことで頑張った子が入れるという連携生徒を選ぶことが必要ではないかと、連携生徒がいろいろなことに頑張っていると評価されるような力をつけてほしいという意見が出たという報告になる。
- 委員長 ・ 資料がないのでまた改めてお願いしたい。では学校運営部会はいろいろご意見もありましたが引き続き進めていっていただきたい。続いて P T A 部会をお願いしたい。
- (P T A 部会について)
- 事務局 ・ P T A 部会について説明させていただく。資料 7-1 をご覧いただきたい。第 1 回目を 6 月 6 日に開催した。一つはスクールバスでずっと検討してきたがここにある基本的な考えをもとに今年度は 2 つの案を提案した。一つ目の案は対象となる中学生と高校生全員が乗れるバスを用意するというもの、大型の 1 便、2 便や往復便などがあって全部でバスは 12 台必要になる。もう一つの案は現在の中高生に「もしこのようなバスがあったら乗りますか」というアンケートを取ったところあまり希望者がいなかったことから対象中学生の 90%、対象高校生の 40%が乗れるバスの案になっている。バスは全部で 10 台になる。どちらのバスにするといいのか協議をした。委員の皆様は 2 便あるといい、つり革のあるバスで立っていてもいいのではないかと、路線は 10 ほしい、保護者に聞くと利用は増えてくるのではないかとという意見が出た。最終的には今後運輸支局を始めバスを運行している市内業者、市の他の部署とも協議をしながらより良いバス運営を決めていきたいということになった。資料 7-2 は現在たたき台として考えている 10 ルート案になる。このルートでいいのかも専門家に見ていただいて検討していきたい。
- 委員長 ・ スクールバスについて意見はあるか。
- 委員 1 ・ 非常に人手不足でバス運転手の成り手もない。人が確保できるかかなり大きな課題とは言え、同じ時間帯に 10 ないし 12 台の人が毎日、土日はないのかもしれないが確保しないといけない。その方が病欠だとかいうとサブの人を準備しておかないといけない。なかなか厳しい課題である。先ほど聞いたが大野の再編が進んだ中では専用のバスを用意している。これは路線バスを利用するので一般の方も乗って効率がいいと

いう話だろうが部活が遅れたなどの対応をしようと思ったときに時間の融通が利くということで専用の方がいいのではないかと大野との交流で話を聞いてきたということだった。業者にかなり早めにお願ひしながら具体的な金額的な数字なりを詰めないとバス車両の注文をかけても非常に高額になってきているし1.4倍とか2千万が3千万、4千万になっていかねない。なかなかの課題だと思うのでペイできるだけの費用を持ってお願ひしないと話にならない。簡単ではないと感じている。

委員長 ・ 実際運転手の勤務時間は8時間ということで説得力のある意見だった。

事務局 ・ この路線バスは現在10ルート走っている。実は一般の方はあまりというかほとんど乗られていない。せっかく走っているのなら中高生も乗れるのではないかとということがスタート。10人確保できるのかという今はできている。今後になると相談していかないといけない。バスも台数もやみくもに増やせないのも業者と相談しながら考えていかないといけない。車両の購入については文科省の補助もあるが運転手のこともあってそれもやみくもに買うわけにもいかない。心配されることはその通りである。

委員2 ・ 路線などは検討しないといけないが市として考えないといけないかもしれない。NHKの番組を見ていたら市の財政や運転手の確保等でかなり厳しくなっているので全国的に令和に入ってからバス路線の統合が進んでいる。勝山市も他人ごとではなく路線バスは国土交通省の補助金とか交通関係部署がやっている。スクールバスは教育委員会で福祉関係の病院の無料送迎バスは厚生労働省、医療福祉関係で結構縦割りで動いている現状の中で運転手の確保とか財政を考えた時に協力をしないと無理な話だと理解した。我々としては生徒の安全安心な通学がメインだと思うがそこにフォーカスしすぎるとまちのインフラが破綻しかねない案は危険だと思った。もちろん現状がそうだとは言わないが年を取ると車の免許を返上してとなった時に勝山市が福祉関係とかいろいろな公共交通機関が破綻してしまうのは難しい。例えばお年寄りも乗らないでほしい、高校も乗らないでほしいというのはナンセンス。周知の仕方や市民の理解は必要だと思う。路線バスとスクールバスの考えはいろいろなところを巻き込んで進んでもいいのではないか。

委員長 ・ 先ほどの説明でも市の他の部署との協議の話もあったので進めていくしかない。貴重な意見をいただいた。

事務局 ・ 市全体で考えていくことにもなっている。

委員長 ・ 高校生が乗って逆に乗りにくくなってしまったこともかつてあった。今は落ち着いている。ほとんど乗っていない人が乗るという話もある。

委員3 ・ 先ほど日課表と関係するが案ではバスが8時15分にジオアリーナ着で入室完了が8時20分となると5分ではどうか。案の段階で意見するのもどうかと思うが余裕をもってほしい。焦ってころんだりすることもある。

委員長 ・ 5分間の問題、他にはどうか、ご意見を先にいただきたい。

委員4 ・ 帰りも10か12路線で2便を考えているのか。

事務局 ・ 帰りは2便ということで単純に言うと部活がない子ども達、次は部活終了後になる。実は5時半ぐらいに出ると高校生の部活動の子は乗れない。案としてはこうしている。

委員5 ・ それも路線バスか。

事務局 ・ 定時定路線を考えている。

委員長 ・ 他にはどうか。無いようなら資料 8、資料 9 をお願いしたい。

事務局 ・ 資料 8 をご覧いただきたい。3 中学校が一つになるので P T A 組織を一つにしていけないといけない。現状の 3 中学校の組織の概要を理解していただいた。同じように資料 9 の同窓会について現状を理解していただいた。この部会で細かに決定はできないのでまずは単 P のそれぞれの中学校で話し合っていたいただきたいということになった。

委員長 ・ 何かご意見等あるか。それでは P T A 部会からの説明は以上としていただいたご意見を踏まえて進めていただきたい。最後に施設整備部会をお願いしたい。

(施設整備部会について)

事務局 ・ 施設整備部会について報告をさせていただく。第 1 回目の施設整備部会は 6 月 14 日に開催した。1 点目として新中学校校舎設計の一部変更について説明し協議をした。資料 10-1 をご覧いただきたい。本日の準備委員会に至るまでの各専門部会等で説明させていただいたので本日の説明は割愛させていただきたい。

資料 10-2 をご覧いただきたい。10-1 の変更もあり現在中学校の設計がどのようなになっているのかをこれまでの動きを中心に説明させていただく。資料と前の画面の図は同じになる。配置図でこちらが勝高の敷地で右側が国道、ジオアリーナがある。体育館があつて新しい中学校は中央側になる。給食室は東側になる。歩いてくる生徒は青色の動線になるが建物の下を歩いて西側の玄関に入ってくる。バスで通学する子ども達は屋根付きの通路を歩いて東側の玄関に入る。地下横断歩道は上下足それぞれ通路があり赤い矢印は上足のままジオアリーナに行ける。緑色の矢印は給食関連として食材の搬入動線で車両が通る。子ども達と交差をするので安全管理を徹底することとなっている。裏の図面をご覧いただきたい。さらに具体的にした平面計画になる。中学生の生徒の動きは実線で表記されている。赤色が上履き、青色の実線が下足になる。一番上が 1 階、真ん中が 2 階、3 階が一番下になる。1 階は青い実線で徒歩の生徒は建物の下を歩いて中学生が使う東側昇降口に入る。バスの生徒はジオアリーナ側から入ってくる。玄関を入った後普通教室、職員室があり、大階段で 2 階のメディアセンター、中高生が共用する学びの丘へと動線になる。特別教室棟は赤い実線で渡り廊下を介して行ける。上履きのままジオアリーナに行ける動線になっている。高校生は点線の動線になるが歩いてくる生徒は西側の玄関から入る。バスで来た高校生はジオアリーナ側から青色の点線を通して建物の下を歩いて西側の昇降口から入る。赤色の点線で一般の教室棟へ行く。グラウンド玄関は中学生と高校生がそれぞれに出るようになっている。2 階平面図では、大階段をのぼってきた形で主に図書機能を中心としたメディアセンターを設置している。2 階普通教室が配置されている。2 階も特別教室棟に行けるように渡り廊下があり高校生も左側から来れるようになっている。3 階は普通教室が配置され個別学習を中心としたメディアセンターを配置している。特別教室棟に行ける渡り廊下も配置している。今の設計はこのようになっている。

引き続き 10-3 をご覧いただきたい。特別教室棟は県の予算で大規模なリノベーション工事として設計をしている。リノベーションというのはほとんど内装を解体して新しく作る形になる。赤い矢印がさきほどの新中学校の校舎からの中学生の動線になる。1 階は主に中学生の諸室を中心としたフロアになる。赤色の部分は 2 つの理科室、技術室で主に中学生が使う。緑色の部分は調理室、被服室、探究理科室で中高生が共用して使う部屋となる。2 階は青色で主に高校生が中心に使う諸室になる。一部理科

講義実験室は共用する。3階は芸術関係を中心とした諸室を配置している。美術室が2室、音楽室も2室、新しく吹奏楽練習室を防音仕様で設けている。設計が最終段階になり県とも協議をしてより良い学校になるように進めている。

資料11をご覧ください。地下横断歩道についての進捗状況を説明させていただく。内装仕上がりになる。左側が校舎、右側がジオアリーナになる。下足上足ルートに分かれていて床は半外部的なエリアになるので耐久性や清掃性を考慮してカラークリート仕上げ、セメント系の塗床材で設計している。壁はボードに塗装がメインになるが地元の杉産材を使った木の壁の設置や仕上げでマグネット式の掲示クロス的设计をしている。地下という暗いイメージを払拭するような天井仕上材として温かい雰囲気の色合いの地下横断歩道を目指して設計をしている。壁仕上材はランダムに配置する計画としている。次に防犯対策を伴った設備計画になる。デジタルサイネージとして中学校の職員室のパソコンから任意の画像や動画を流すものを2か所設置する。防水コンセントを適宜配置していきたい。防犯対策としてドーム型カメラを設置する。点線はカメラの見える範囲を示している。緑色の部分にICカードリーダーを設置し施錠管理できるような形で設計をしている。続いて照明計画になる。一般的に地下横断歩道の照度は100ルクスとされているが子ども達が安心して使用できる明るさとしたいということで普通教室の300ルクスの明るさを計画している。人感センサーやプログラムタイマーを組み合わせて照度を確保したい。下の方が雨水対策になる。地下横断歩道の中に水が入らないように左下の脱着式や真ん中の簡易式を操作性や機能性を勘案して今後進めていきたい。ジオアリーナ側の防水板になる。次に排水計画になる。地下横断歩道の中に水が入った場合、矢印の方向に水を排水する勾配になっている。最終的には高校側の排水路に排出する計画とし断面的な計画としては両脇に幅10cm、深さ10cm程度の側溝を設けて水を流すこととしている。続いて地下御横断歩道の設計発注となる。今年度は赤色の部分、国道の下部分を計画している。7年度は緑色の部分、ジオアリーナに上がる部分の発注を計画している。次にそれに伴う交通の規制計画になる。北側が左になって福井方面、右側が大野方面になる。157号線の管理者の福井県や奥越土木事務所、勝山警察署とこれまで協議を進めてきた。約400mを交通規制の計画として段階的に交通を切り替えながら工事をする。1次規制として上側がジオアリーナ、赤い部分が地下横断歩道になる。高校側に車を流すようにしている。2次規制は中央分離帯部分の工事になる。3次規制はジオアリーナ側に車を通す形となっている。最後に工程表になる。6年度は1次規制、7年度は2次規制、3次規制をかけて工事が行われる。一番最後に全体の工程表で校舎の設計が10月の中旬、地下横断歩道が6年度から8年度にかけて工事をする。中学校の校舎を建てる時に勝高の玄関棟を解体する必要があるので仮設昇降口等の工事がもう少しで発注となる。一番下の中学校の本体工事は今年度中に発注して令和8年度の12月末を目標にしたい。給食室は別発注となるので令和7年度からの発注で最終的には令和8年12月を目標に進めていきたいと思う。現在勝高の第一体育館のリフレッシュ工事が始まっている。勝高の特別教室棟のリフレッシュ工事も令和7年から令和8年にかけて入ることになっている。部会の委員の皆様からは、地下横断歩道について内装を洗練されたここまでのことが必要なのか、乾式、火災の対策、地下横断歩道の床のすべりにくさという意見をいただいた。意見を参考にして進めていきたい。

委員長 ・質問やご意見等あるか。

委員1 ・仕上げはわかったがやり方としては下に掘ってコンクリートか鉄骨かを埋める。強度

的にはどうか、滑ったりしないのか。

- 事務局 ・ 図面にあるようにプレキャストのコンクリートで工場で作った箱型のコンクリートの構造物を現場で入れていく形になるので品質は安定しているし設計はしっかりしている。工期の短縮も踏まえてこの形で施工していきたい。
- 委員 2 ・ 地下横断歩道に A E D はあるのか。学校にはどこに A E D を置くかはあると思うがリスクに無尽蔵にお金をかけるわけではないがジオアリーナに走った方がいいのか学校も遠いとなった時にどうするのか。検討できるのであれば検討してほしい。
- 事務局 ・ A E D についてはジオアリーナにはもちろんあるし学校にも配備されると思う。距離的なことも踏まえて地下横断歩道にも必要かどうかを検討したい。
- 委員 3 ・ 工程表のところで準備のために仮設をいろいろしないといけない。その時期が冬になる。
- 事務局 ・ 今から発注になると確かに下半期になる。積雪も考慮しながら土工事なので雪があるときできないこともあるので現場を確認しながら進めていきたい。
- 委員 4 ・ 当初実施設計が 6 月だったがいよいよあって 10 月になった。造成が遅れると建築が遅れる。それをカバー出来るだけの余裕のある工程を組んでいるということか。
- 事務局 ・ 設計業者の方といろいろなリスクを含めて検討に入っている。令和 8 年 12 月を目指して進めていきたいと思う。
- 委員 5 ・ 個人的には緊急通報ボタンがそこそこあればそれを押すと消防にも通報が入ってカメラさえ見れば火事だと倒れた人が見えると思うので検討してほしい。
- 事務局 ・ 図面にはないが緊急ボタンは設置する予定でいる。直接消防につながるのではないが連絡できる形はとりたいと思う。
- 委員 6 ・ 資料 10-2 で食材搬入動線があるが、給食室までどのくらいの大きさの車が行くのか。
- 事務局 ・ 車両は午前中 5 台程度で牛乳とかパンとか野菜とか決まった食材をある程度時間を決めて運ぶ。2 トントラックぐらいまでだと思う。
- 委員 7 ・ 2 トンで来てくれるのか。効率を考えるとだんだん車両台数を減らしてまわっていかないといけない。奥越までみんな回ると 4 トン。その車がここを通れるのか。冬季は除雪がされているのか。大通りから直接入れる動線を作った方がいいのではないか。除雪の範囲も少なくすむし今更できるかできないかはわからないがバルクタンクの位置をずらすことによって入ってこれるといい。除雪費用をかけていると大変なことになるしランニングコストも考えるとどうか。広さと位置、除雪の費用から近いラインを作った方がコストは抑えられる。
- 事務局 ・ 食材搬入動線だが食材だけではなくゴミとか施設の管理でどうしても車両が通らないといけない。機械除雪をさせていただく。車両が 2 トンか 4 トンかはわからないが搬入車が通れるような車幅を確保していきたい。国道からの乗り入れも検討はしたが高低差が 6 m 近くあるのでその車両を入れるスロープ形となるとかなりの用地が必要になる。勝高内の機械除雪をしているのでそれと合わせて除雪をグラウンド側に落とし施設全体の周りも除雪させていただきたい。
- 委員 8 ・ 高低差のことがわからなかった。道幅をかなり作らないときついかと思う。

委員長	・他はよろしいか。
事務局	・最後に資料 12 をご覧いただきたい。施設整備部会では学校歴史等の継承について案を検討した。残すものと廃棄するものと未定のもので今後いろいろなことを考えてすすめるということで終わっている。委員の皆様からはタイムカプセルがるのではないかと、紅白幕など高価なものはそのまま新中学校で使えばいいのではないかと意見をいただいた。その意見も踏まえながら今後さらに詰めていきたい。
委員長	・これからということでよろしくお願ひしたい。一点、廃棄とあるが教育博物館に提供していただけるといい。以上で本日の協議を終わりたい。事務局にお返りする。
事務局	・長時間にわたりありがとうございました。今日いただいたご意見を踏まえながら各部会で検討を進めていきたいと思う。今後とも委員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひしたい。次回は 10 月末か 11 月頃に第 3 回の再編準備委員会を予定している。日程等調整してご案内させていただくのでよろしくお願ひしたい。以上で第 2 回勝山市立中学校再編準備委員会を終了とさせていただきます。本日も忙しい中ありがとうございました。

資料 1. 資料 1. 校章の選定方法について

資料 2. 校歌の選定方法について

資料 3. 令和 7 年度 中学校入学生交流会・説明会実施要項（案）

資料 4. 学校指定物品について（案）

資料 5. 日課表について（案）

資料 6. 放課後活動について（案）

資料 7-1. スクールバスについて（案）

資料 7-2. 勝山市立中学校スクールバス路線図（案）

資料 8. 3 中学校の P T A 組織の現状

資料 9. 3 中学校の同窓会組織の現状

資料 10-1. 新中学校校舎設計の一部変更について

資料 10-2. 新中学校校舎平面図（案）

資料 10-3. 特別教室棟図（案）

資料 11. 地下横断歩道について

資料 12. 学校歴史等の継承について（案）